



## ○中学部



ヴァイオリンの触察



舞台の手前にオーケストラが控え、生演奏をすることを伝えるために、模型を作製しました。

歌やリコーダーアンサンブル、鑑賞などを中心に授業をしています。オペラ「アイダ」の鑑賞では、舞台装置の構造についてイメージを膨らませるために、オーケストラピット付きの舞台の模型を準備し、触察する時間を設けました。また、合奏協奏曲『四季』から「春」の鑑賞では、ヴァイオリンに触れ、実際に音を出してみる活動を取り入れました。

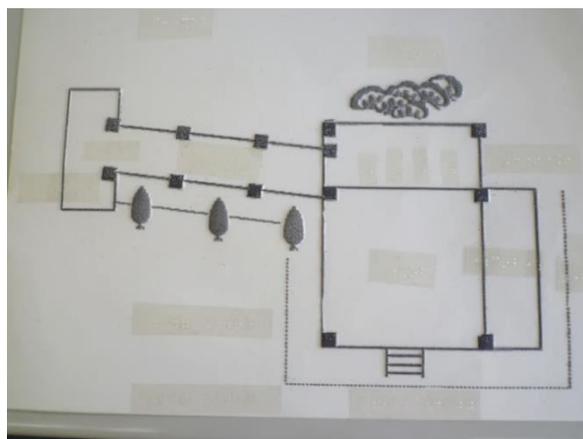
～ ♪ ～ ♪ ～ ♪ ～ ♪ ～ ♪ ～ ♪ ～ ♪ ～ ♪ ～

## ○高等部普通科

日本の伝統音楽（能：「羽衣」）の鑑賞では、能について学習を深めることができるように教材を準備しました。視覚の活用が難しい生徒に能楽堂の様子を理解できるように、伝えたい情報を整理した立体コピーを作成し、シテやワキがどのように登場し、舞台上で演じるのかを触察しながら学ぶことができる場を設けました。また、生徒が実際に衣装を着けて舞う動作や、地謡座に座る疑似体験を行ったことで、能舞台へのイメージをもち、興味関心を広げることにつながりました。



衣装を着けた地謡座の体験（H30）



立体コピーの能楽堂に、名称を点字で貼り付けました。教師とやり取りしながら触察します。